

## 議員特別研修実施報告書

報告議員名	林 一輝	報告日	令和4年11月 8日
調査研究・研修等 名 称	第17回全国市議会議長会研究フォーラム —デジタルが開く地方議会の未来—		
実 施 日	令和4年10月19日 ~ 令和4年10月20日		
会 場	ホクト文化ホール、サンクゼール・ワイナリー本社 いよいよコネクトWEST		
調査研究・研修等の 概 要	<p>1. 全国市議会議長会研究フォーラム</p> <p>①基調講演：「コロナ後の地域経済」</p> <p>②パネルディスカッション 「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」</p> <p>③課題討議 「地方議会のデジタル化の取組報告」</p> <p>2. 視察 飯綱町：6次産業化の先進的な取り組みと閉校した小学校の再活用事例</p> <p>①サンクゼール・ワイナリー 視察</p> <p>②いよいよコネクトWEST 視察</p>		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙参照		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

## 1. 全国市議会議長会研究フォーラム ―デジタルが開く地方議会の未来―

日時：令和4年10月19日(水)、20日(木)

場所：ホクト文化ホール

### ①基調講演：「コロナ後の地域経済」

講師：富山 和彦 氏 株式会社 経営共創基盤(IGPI)グループ会長

株式会社 日本共創プラットフォーム(JPiX)代表取締役社長

#### 成果と感想)

日本のGDPの低下には東京への一極集中が起因しており、通勤に2・3時間かけている人達はその間生産していない。それでは生産性が向上するわけではない。今こそ地域経済が主役で地域経済の頑張りこそが今後の日本の展望を決めるといっても過言ではないとの事。

ヨーロッパは人件費のかかるホテルやレストランの料金が安い。日本もある程度見習うべきだとのお話もあった。

また、今後地方は、ワーケーションの受け入れが進むように魅力ある地域として発信する事が重要であるとの事。以前より自分もワーケーションには力を入れるべきだと思っており、自然の多い横手市で魅力ある地域づくり・発信を積極的に行っていくべきだと再認識した。

### ②パネルディスカッション

「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」

コーディネーター：人羅 格 氏 毎日新聞社論説委員

パネリスト：岩崎 尚子 氏 早稲田大学電子政府・自治体研究所教授

牧原 出 氏 東京大学先端科学技術研究センター教授

湯浅 壘道 氏 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

寺沢 さゆり氏 長野市議会議長

#### 成果と感想)

牧原教授の日本は窓口での行政対応のレベルが他国に比べて高すぎて、それがオンライン化促進の妨げになっているという話が印象深かった。やはり、人でなくてはいけないサービスを充実させる為に、単純なサービスについてはオンライン化を進めていくべきだと感じた。

また、湯浅教授より、議会の情報発信は一方通行の場合が多々あるが、オンラインでの議会報告会やこども議会等を通じて、双方向のコミュニケーションを再構築する事が出来るとのお話があった。これについては、今後の広聴広報活動、ICTの推進においても忘れずにいたい。

・課題討議

「地方議会のデジタル化の取組報告」

コーディネーター：谷口 尚子 氏 慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント  
研究科教授

パネリスト       ：金澤 克仁 氏 取手市議会議長  
                      板津 博之 氏 可児市議会議長  
                      林 晴信 氏 西脇市議会議長

成果と感想)

①茨城県取手市議会

議員と事務局が同等の目線であることにより、事務局からもどんどん新しい意見が出され、それが先進的な取組に繋がっているとの事。特別な事はしていないが、出来ることを着実に進めているとのお話であった。取り組みとしては

- ①現地視察をオンラインで実施する為に360度カメラを導入
  - ②議案の事前説明をオンラインで実施
  - ③意見交換会を医療従事者とは平日の夜間、市PTAとは土曜日の午前中など相手の都合に合わせて開催
  - ④AIによる会議録視覚化システム
- 等、数々の先進的な取り組みが聞かれた。

②岐阜県可児市議会

現在はHPとFacebookでの情報発信を行っているが、若い市民に向けて11月からインスタグラムでの情報発信も始めるとの事。

③兵庫県西脇市議会

下記のような参考になるお話が多く聞けた。

- ・毎月委員会を開催しており、第〇週の〇曜日と開催を決めて委員が予定を立てやすいようにしている。
- ・タブレットを導入してみたが、ノートパソコンの方が使いやすく現在ノートパソコンの使用者の方が多い。
- ・オンライン視察は、視察費が足りなくて中々いけない遠い地への視察も実現させてくれる。
- ・オンライン予算広聴会を実施。専門的な方から教えてもらう会で、議員が論破する会ではないことを議員の共通認識に。
- ・新潟県柏崎市のデジタル予算書が本当のデジタル化。ただPDFにしてあげるのは違う。

3つの議会の取り組みをお聞きし、横手市でも直ぐに導入できるもの、今後検討していきたいものが多々あった。自分が所属している広報広聴委員会やICTプロジェクトチームで機会を捉えて提案していきたい。また、兵庫県西脇市議会よりお話を聞いた新潟県柏崎市のデジタル予算書については、実際に視察に伺って話を聞いてみたい。



## 2. 視察

飯綱町：6次産業化の先進的な取り組みと閉校した小学校の再活用事例

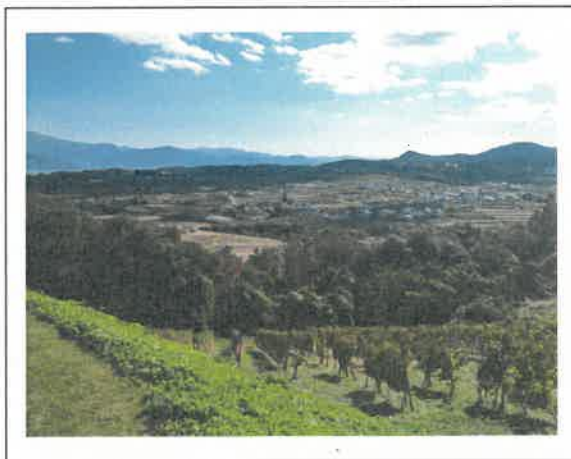
### ① サンクゼール・ワイナリー 視察

<株式会社サンクゼール>

長野県飯綱町に本社がある食品メーカーで、ワインの醸造をはじめ、レストラン、売店経営など全国各地において事業展開している。また、農林水産省が実施した調査において、「6次産業化への問題意識が高い企業」として優良ビジネスモデルの導入可能性についての調査対象にするなど、6次産業化の先進的な取り組みを行っている。

成果と感想)

平日にも関わらず観光客の方が多くみられた。レストラン、ぶどう畑やワインの醸造所、BBQが出来る芝生のガーデン等が一体的に整備されており、凄く魅力的なエリアであった。果樹生産が盛んな横手においても真似出来る場所はあると感じた。



### ② いいづなコネクト WEST 視察

<いいづなコネクト WEST>

閉校になった小学校の跡地利用で出来た施設。校庭をスポーツを通じて地域の人々が集い、交流を生む場としてサッカー場「いいづなパルセイロフィールド」にリニューアル。

2021年4月に自然、スポーツ、健康をテーマにした複合施設として全館グランドオープン。サッカー場の他に、フリースクール、コワーキングスペース、コインランドリー、スタジオや介護予防の為にパワーリハビリテーション、フィットネスクラブといった機能をもつ。

#### <カンマッセいいづな>

2019年5月に創業した「民間のまちづくり会社」。閉校になった小学校2校の跡地利用を主の目的に作られた会社。カンマッセという言葉は、長野県北信の方言「かんます＝かきまぜる」という意味を持ち、地元の方と移住者、古きと新しきを混ぜ合わせて、新しい文化を作っていくという思いが込められている。

主な事業内容として、

- ①廃校活用事業として「いいづなコネクト WEST」「いいづなコネクト EAST」の2箇所を運営
- ②ふるさと納税運営として、飯綱町のふるさと納税の運営を受託し、町の農家や事業者と連携し、特産品を寄付者に届けている。
- ③飯綱町のおいしい農産物・特産物を購入できる、飯綱町公式通販サイト「みつどんマルシェ」を運営している。

#### 成果と感想)

「いいづなコネクト WEST」を見学させてもらった。初期投資(約3億4千万円)や大規模改修は町で行い、管理運営を「カンマッセいいづな」に指定管理(3年)しているとの事だった。施設としては凄く良くて、今後の廃校利用に参考になる部分が多かったが、初期投資は致し方ないにしてもランニングコストを町が一部負担していくという事をネックに感じた。指定管理されている「カンマッセいいづな」としても、

- ①施設の枠を超え、飯綱町全体ににぎわいや活気を生む
- ②自主運営によって成り立つ施設へ
- ③しごとの創出、企業誘致を行い、社会人口、関係人口を増やす

といった中長期ビジョンを持っており、②や③で今後こういった成果が得られるかは非常に興味深い。

また、「カンマッセいいづな」はふるさと納税の事務運営もしているが、納税額は右肩上がりです上昇しており、3年間で5,800万円から4億8,000万円まで増額している。横手市においてもふるさと納税の民間委託を本格的に考えていくべきと感じた。

